

環境カフェの皆さまに

岩波月刊誌 世界 について (お薦め)

これまで県立図書館にしかなかった「世界」が、赤磐市立中央図書館で読めるようになりました。お高くて煙たい先入観で敬遠気味でしたが手に取ってみるとそうでもありません。既に購読されてる方もおられるかと思いますが、皆さまもこの機会に近づかれてはいかがでしょうか。

‘24/1月号から表紙デザインが一新されました。『本誌のリニューアルにあたって、新しい表紙をどうするか、「世界」とはどんな雑誌なのかを編集部で改めて考える機会でもあった。木版画を重心に据えて・・・』と編集後記にあります。表紙が従来のカレントな写真から様変わりしただけでなく、内容も親しめるようになった気がします。1月号から次の2題を紹介しますので、ご参考くださればと思います。



ガザ、人類の危機：中満泉さん(国連事務次長、軍縮担当上級代表)に国谷裕子さんがインタビューした記事ですが、TVで見るグテーレス事務総長の想いを体した適確な答えに流石と

思いました。10/7のハマスによるイスラエルへのテロ攻撃は当然ながら強い形で非難されるべきだが、イスラエル側でこの事件の凄惨さからハマスを殲滅するまで攻撃を止めないとの世論が強くなり、国外から説得できない状況に。安保理でグテーレス氏が発言した「ハマスによる攻撃は理由なく起きた訳でない・・・、パレスチナ人は56年間息苦しい占領下に置かれてきた」に、イスラエルが強く反発して総長辞任要求の展開にも。

アメリカの関わり方、国連本来の働きが難しい状況など、戦争になればどんなルールも無視される、ニュースではよく分からない背景を知りました。更には、ウクライナの紛争で核兵器使用を示唆する威嚇があること、平和を脅かす難題が絶えないことなどに話題が及びました。複雑で手に負えない世界情勢の中、日本人女性が国連で取り組む姿に敬服するばかりです。(上記は私の無知による誤解があるかもしれないのをお含みください)

人間であることが困難な世界で：人間のモノ扱いが奴隷で始まったが、現代社会でも徴兵制度で前線に駆り出される兵士や市場経済下の労働者が人格を無視されて数で扱われるのは本質的に変わらない。人間の「愚かしさ」を克服しがたいのは、それが人間の「賢明さ」と表裏一体になっているからである。人々を効率的に管理し、一定の方向に導くことが政治的な賢明さの証しとなる。ユートピアはディストピアの対極にあるわけではない。それらは隣り合い、互いを支え合っている。むしろユートピアに目を奪われること自体がディストピアを温存させているのかもしれない。

あらゆる人間の行動を数値データとして把握し、人工知能で処理する時代になりつつある。人間がいかに「人間であること」を続けられるのか。そこに潜む暴力にどう向き合うのか。その問いは、なぜ人間が戦争の愚かしさから逃れられないのかを考えることと同じ地平にある。

筆者は文化人類学専攻の岡山大学文学部准教授。かつての“岡大サイエンスカフェ”が発展して広範囲の公開講座に、本題のような話が身近になればよいのにとと思います。

中央公論、正論についても：世界・中央公論・正論 3誌の編集長が語る鼎談記事が中央公論4月号にあります。「多様な意見が共存、三誌三様であっていい」が結論のようです。世界は別として、中央公論は読売、正論は産経が背後にあるのはご承知とします。

集いを提案：環境カフェとは別に分野の枠にこだわらず、様々な知識・経験を下敷きにして、地方自治から国・世界レベルまで、地域と世代を越えて自由に話し合う場があればと思っています。各自が地球環境を身近に感じ、子どもの環境学習についてなども。論壇誌を話題にするのも一つかと考えます。

皆さまからお考えやご提案を待っています。差し支えなければ、メールを全員に返信でお願いします。

2024年3月21日 桜が丘西8-25-8 中西卓 Email: naktak@sky.megaegg.ne.jp 電話 086-608-1321

【補遺】中央公論 '24/4月号から（上記三誌編集長の鼎談に加えて）

上川陽子外相：就任当時麻生氏の発言で話題になったが、本号トップ記事・時評と本人の特別寄稿から、過去の外相に見えなかった広い視野と積極行動を知った。ウクライナ訪問で、パブリック・ディプロマシーとソフトパワーの必要を実感したこと。多くの外国で図書館や書店を寸暇を割いて訪ねるという、外交と直接結びつかなくても、文化と暮らしをおろそかにしない考えがあるのだろう。

田原総一郎氏：激論！クロスファイアで誰彼なく指さす強烈な司会者だが、この記事で彼の本性が分かった気がする。彼は自分たちと同年で戦争体験がある、憲法の生い立ちと歴代首相の考えを知っていて近年のリーダーの変わり様にモノ申したいようだ。最近のメディアは政権に忖度してか、萎縮しているという。総務大臣だった高市早苗さんの発言「放送内容に偏向があれば放送局の電波を停止する」との一件にも触れている。

ここに往年の政治家が登場して、田原流の話の展開がおもしろい。

おわりに

例によって、ローカルな発信を KOZOOM に利用する手抜きをご容赦願います。

- ・卒寿でがんばってるつもりでしたが、田原さんのパワーには及びもつきません。
- ・上川外相については、新聞各紙やTVの扱いがどうか知りませんが、少なくともご本人による話はここにしかないでしょう。トップリーダーに相応しいと期待する人ですが、メルケルさんのようにと思うのは夢でしょうか。

今度のミーティングでは、額田晃作さんのことなど春の話題を楽しみにしています。

中西卓@岡山